Interview

三条市内の会社に勤める男性会社員Sさん

諸事情によりお名前、会社名を伏せてお話いただきました。

13 日は朝から激しい雨でした。通勤途中、既に県央サティ付近は道路が冠水していて、三条方面には黒い雲がかかっており「何かいつもと違うな・・・。」と感じながら会社へ向かいました。

お昼前には会社周辺の田んぼの浸水が始まったので、従業員の早退を検討すべく雨量や河川水位情報などの収集を試みました。しかし、思うように情報収集ができず、いつもどおり昼食を食べて午後の仕事を始めようかという頃でした。「ゴォォォ」という音と共に五十嵐川の方から鉄砲水のように濁流が押し寄せてきました。

すぐに従業員を避難させましたが、あっという間に水位が上昇し 1 階では床上 2m ほどまで浸水しました。一瞬の出来事で避難するだけで精一杯。工場の機械や会社の書類などを移動させるような時間はありませんでした。それからは混乱する中、従業員の安否確認を第一優先で進め、従業員の氏名や負傷の状況など次々とホワイトボードに記し、安否の問題なしの○印が並んでいきました。会社内は浸水後しばらくして停電したので、情報共有や打合せなどにホワイトボードがかなり役立ちました。

従業員の安否確認終了後の課題は避難ですが、濁水が引かなかったことから、無理に避難せず従業員は会社に泊まることを選択しました。

停電しているため日が暮れるにつれて真っ暗になり、暗がりを確認する上で携帯電話のディスプレイに大いに助けられました。ただ、電話は繋がらず家族の安否が気になり、大きな不安を抱えたまま夜を過ごしました。

翌朝はヘリコプターが飛び交う音で目が覚めました。窓を開け外を見ると一面の泥海が広がっていました。田んぼや道路はどこかわからず、車は屋根が見える程度。家屋は湖上にあるかのようで、唖然として言葉が出ませんでした。それでも従業員ともども冷静でした。あらゆるものが浸水して何もできませんでしたからね。また、自衛隊がボートで食料や水を届けてくれたときは本当にありがたかったです。

その後、従業員は自衛隊に救助されたり、水が少し引いてからうじて道を通れるまで待ったりしてから、歩いて東三条へ向かい、待っていてくれた市外の従業員の車で自宅等へ帰ることができました。14 日の夕方にはほぼ全員の帰宅を完了しましたが、このときは会社の人間の暖かさを痛感しました。一部の従業員は防犯上の観点から会社に残りました。停電しているためセキュリティシステムが働かないからです。

三条市内の浸水状況。車の屋根がかろうじて見える。

浸水から 3 日ほど経った頃でしょうか。徐々に水が引き始め、復旧作業に取り掛かることにしました。しかし、水が引くと同時に改めて被害の重大さが目の当たりになりました。泥まみれとなった機械や書類、社内に流れ込んだ大量の泥とゴミ。どこから手をつけていいやら検討がつきませんでした。道路上にも大量の土砂やゴミ、車が流れ着き、道路はまったく使えない状況でした。もっと

も私ら全員の車が浸水して使えなくなってしまったので、通勤するには徒歩か自転車どちらかの方法しかなかったです。

泥出し・ゴミ出し作業に備え、簡易トイレ、マスク、軍手、長靴の調達を試みましたが、品切れで調達に苦労しました。そんな中、取引先の会社の方々が不足している物資に加え、一輪車やスコップなどの道具を持ってきてくれて本当に助かりました。準備が整い片付け作業を始めたのですが、泥は隅々まで入り込み何度かき出しても簡単にきれいにならず、流木、家電製品、家具などあらゆるものが流れ込み、ゴミを移動させるだけでも一苦労でした。そして**使い物にならなくなった大量の道具・機械・書類。廃棄する場所がなくどうしたらよいのか困りました。**また、従業員の車は個人財産となるため会社が処分できず、全ての車が処分されるまで1ヶ月ほどかかりました。

ある工場内の状況。あらゆるモノが散乱している。

流失した車。田んぼや道路などに散在。

大方の片付けは1週間ほどで終了しましたが、7月末まで撤去作業に追われ、機械の廃棄の判断、修理、購入などを実施し、お盆前には工場の操業にこぎつけました。

この水害では、**従業員の命を守ることを最優先し、安否確認を早期に終えたことが、浸水しても冷静でいられた大きな要因かもしれません。**また、従業員の避難を検討している段階では、**情報の少なさに大変困りました。**五十嵐川上

流には 2 つのダムがありますが、そのダムが今どうなっているのか、五十嵐川はどのような状況なのか、13 日の朝の段階である程度判断できる情報がほしかったです。五十嵐川が破堤したという情報も無く、情報の重要性を痛感しました。会社としては防災マニュアルの見直しに着手し水害の想定を盛り込みました。

私個人は、水害を経験してインフラ整備の重要性をかなり強く感じました。ソフト・ハード両面で整備を行っていれば、これほどまでの惨事にはならなかったかもしれません。また、被災後は道路が機能しなくなったため、私は 10km の距離を自転車で通勤しました。バスも電車もなく非常に不便だったことを思い出します。幹線道路だけでも臨時バスを通すなど、ソフト面の対策の必要性を感じました。

日本は災害の多い国と言われ私もその認識でおりましたが、いざ災害が起きると何も対策がされていないように感じました。避難マニュアルもなくその場での対応に追われていた感は否めません。リスク対応という考え方がありますが、リスク回避のための予防にかける経費、リスクを被ったときの経費、どちらが得なのかよく考えなければなりません。

現在は低成長時代となり財産管理がキーワードとなります。本当に大切なのは災害を予防することであり、そのために災害に対する知識や認識を高めることだと思います。私たちはリスクをよく考えなければなりません。